

インテリア科	科目名	インテリア設備(木工・工芸類型)	校長		教頭	
履修学科	インテリア科			担当者		
履修学年	第3学年		履修単位	3単位		
概要及び目標	インテリア科で学ぶ生産技術は(A)建築物の内部空間を構成する技術と、(B)空間で使われる家具や器具を生産する技術とがある。 「インテリア設備」で学ぶのは、主として(A)の分野である。建築構造, 建築設備, インテリアの構造・材料, 維持保全, 関連法規などの基礎知識を習得し, 多様化する社会と技術に対応できる能力を身につけていきたい。					
評価基準及び方法	定期テスト、小テスト、課題または提出物等を中心にし、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。					
使用教科書及び教材	教科書 … 文部科学省 「インテリア設備」 東京電機大学発行 教材 … 建築図面, 模型, 掲示物, 建築関連書物					
その他留意点	実習等に関連づけて学習する。					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	オリエンテーション, 総説		
	第7章 関係法規	第1節 安全な居住環境	
		第2節 建築基準法	
5		第1 法の校正と種類	
		第2 用語の定義	
		第3 一般計画に関する規定	
		第4 空間環境・衛生に関する規定	
6		第5 防火に関する規定	
	第3節 消防法	第1 火災の予防	
		第2 防災規制	
7	第4節 その他の関係法	第1 バリアフリー法	
		第2 ビル管理法	
8			
9	第5章 構造の力学	第3 グリーン購入法	
		第4 住宅品質確保促進法	
		第5 対審改修促進法	
		第6 長期優良住宅	
10		第1節 構造物と力	
		第1 構造物	
	第2 加重		
	第3 反力		
11	第4節 部材の反力	第2節 部材の断面	
		第1 材料の性質	
12	第4章 維持保全とリフォーム	第2 断面の性質	
		第1節 維持保全	
		第1 維持保全の目的	
1	まとめ	第2 ライフサイクルコスト	
		第3 維持保全の内容	
2		1年間のまとめ	

教科名	工業	科目名	課題研究（金工）共通	校長印	教頭印	担当者印
履修学科	インテリア科					
履修学年	第3学年			履修単位	4単位	
概要及び目標	1・2年生に学んだ様々なインテリア材料の知識を生かし、生徒自身が課題を設定し、機能性と美しさを考慮した金属作品を制作する。					
評価基準及び方法	卒業作品・素材研究の内容・図面の提出、レポート等授業態度や出席状況を照らし合わせ総合的に評価する。					
使用教科書及び教材	インテリア計画、インテリアエレメント生産、課題プリント、溶接機械、各種工具、金物等					
その他留意点	保護具一式を着用し、確認する。溶接機械やガスボンベの安全確認とメンテナンスを徹底する。					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	金属製品・技術の調査	インテリア製品の金属製品について資料収集 溶接等各種組み立て技術の習得	
5	鋼材の加工技術	板金属、鋼材による加工技術 アーク溶接、Tig溶接の習得	
6	工作要素 製品加工	溶接技術を用いた小作品の制作 部品加工 部品切断 研磨	
7	研究作品の図面制作	卒業作品展に展示する研究作品を図面に起こす	
9	製品加工	材料採寸 部品切断・加工 研磨	
10	仮留め・組み立て	溶接、ボルト、組み立て	
11	下地と仕上げ 異素材（木工等）加工	研磨、下地塗装、仕上げ塗装 木工等	
12	作品を完成させる	仕上げ塗装、講評会（鑑賞）	
1	機材の整理	道具の手入れ	
2	まとめ	発表と鑑賞	

インテリア 科	科目名	実習（木工）木工類型班	担当者	
履修学科	インテリア 科			
履修学年	第 3 学年	履修単位	6 単位	
概要及び目標	1・2年次に学んだ様々な技術・知識を生かし、生徒自身が課題を設定し機能性と美しさを考慮した木工作品を研究・制作する。			
評価基準及び方法	課題作品・図面の提出、授業態度や出席状況を照らし合わせ総合的に評価する。			
使用教科書及び教材	インテリア製図、インテリア計画、インテリアエレメント生産、課題プリント。			
その他留意点	機械を多く、使用するため安全には、特に注意する。			

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	調査と工程表	オリエンテーション、工程表作成、調査、資料収集、	
5	模型作成	アイディアスケッチ、製図（三面図・部品図） 1 / 2 0 模型作成、仕口の検討	
6	材料の選定	製材	
7	材料加工	部品加工	
8			
9	材料加工	部品加工	
10	仮組立	仮組、調整	
11	福祉家具の組立	組立、接着	
12	福祉家具の接着	組立、接着	
1	福祉家具の研磨	素地調整、（研磨）	
2	塗装	下地塗装、仕上げ塗装	
3	作品鑑賞と道具の手入れ	仕上げ塗装、講評会（鑑賞）、道具の手入れ	

インテリア科	科目名	実習（工芸）	担当者	
履修学科	インテリア 科			
履修学年	第 3 学年		履修単位	4 単位
概要及び目標	2年次に陶芸の知識の基礎となる様々な技術を学び、3年次ではそれを応用発展し、さまざまな素材に触れ、工芸分野における伝統技術を修得する。			
評価基準 及び方法	1. 態度（学習態度・出席状況・卒業作品展への参加等） 2. 実習作品（①電動ロクロで食器作品、②陶芸作品）			
使用教科書 及び教材	教科書：担当者の作成したプリント・資料等 教 材：参考作品等			
その他留意点				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	オリエンテーション	授業・卒業作品展の説明 2学年で学習した技法・道具などの確認	
5	課題①電動ロクロで食器	デザインを考える 制作計画	
6	課題①電動ロクロで食器	成形 素焼き	
7	課題①電動ロクロで食器	ペーパーがけ、施釉 本焼き	
8			
9	課題②革加工	刻印デザイン画・制作計画	
10	課題②革加工	採寸・裁断・縫い・カシメ打ち・刻印	
11	課題③和紙細工でランプシェード	配色計画	
12	課題③和紙細工でランプシェード	和紙細工	
1	作品鑑賞会	講評会（鑑賞）	
2	まとめ	使用教室の整理整頓と掃除	

教科名	工業	科目名	実習（装備）	担当者	
履修学科	インテリア科				
履修学年	3年3組（木工類型）	履修単位	4単位		
概要及び目標	1・2年生に学んだ様々なインテリア材料の知識を生かし、生徒自身が課題を設定し、機能性と美しさと機能性を考慮した作品を制作する。				
評価基準及び方法	課題作品・図面の提出、レポート等授業態度や出席状況を照らし合わせ総合的に評価する。				
使用教科書及び教材	インテリア製図、インテリア計画、インテリアエレメント生産 課題プリント、製図セット、各種工具等				
その他留意点	保護具一式を着用し安全教育の徹底をはかり事故のないように行う。				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	調査と工程表	オリエンテーション、工程表作成、調査、資料収集、	
5	模型作成	アイディアスケッチ、製図（三面図・部品図） 1/20模型作成、仕口の検討	
6	材料の選定	製材	
7	材料加工	部品加工	
8			
9	材料加工	部品加工	
10	仮組立	仮組、調整	
11	作品の組立	組立、接着	
12	作品の接着	組立、接着	
1	作品の研磨	素地調整、（研磨）	
2	塗装	下地塗装、仕上げ塗装	
3	作品鑑賞と道具の手入れ	仕上げ塗装、講評会（鑑賞）、道具の手入れ	

教科名	工業	科目名	実習（製図）	担当者	
履修学科	インテリア科				
履修学年	3年4組（CAD類型）	履修単位	4単位		
概要及び目標	1・2年生に学んだ様々な知識を生かし、建築製図を学ぶ。建築CADソフトを使えるようにする。住宅、商業施設の図面を模写することで、空間構成について学ぶ。平面図、断面図、立面図の関連を学				
評価基準及び方法	課題作品・図面の提出、レポート等授業態度等を照らし合わせ総合的に評価する。				
使用教科書及び教材	インテリア製図、インテリア計画、インテリアエレメント生産 課題プリント、CADソフト、各種工具等				
その他留意点					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	製図の説明と工程表	オリエンテーション、工程表作成、調査、資料収集、	
5	課題製図①	建築製図について学ぶ。 CADの使い方を学ぶ	
6	課題製図①	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
7	課題製図②	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
8			
9	課題製図	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
10	課題製図	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
11	課題製図	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
12	課題製図	平面・断面・立面・配置図等について学ぶ	
1	作品発表	各自プレゼンテーションをする	
2	学習のまとめ	学習を振り返り、今後はどう生かすかグループディスカッションをおこなう。	
3	学習のまとめ		

		校長		教頭	
教科名	工業	科目名	インテリア計画(3年 選択A)	担当者	
履修学科		インテリア科			
履修学年		第3学年	履修単位	2単位	
概要及び目標	目的にあった室内を計画するために、これまでに学んだ知識や技術を活かして模型を製作する。また、プレゼンテーションソフトを活用し発表することによって、プレゼンテーション技術も身に付ける。				
評価基準及び方法	課題作品・図面の提出等を中心にし、授業態度や出席態度や出席などを総合的に判断し評価する。				
使用教科書及び教材	「インテリア計画」教科書 「工業技術基礎」教科書				
その他留意点	インテリア計画,実習等に関連付けて学習する				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	・オリエンテーション	・オリエンテーション	
	・ペーパークラフト		
5	・サイコロ制作	・安全管理の徹底	
6	・住宅模型	・模型製作の意義・目的	
7		・各種図面を用いて模型製作	
9	・室内模型	・工程表を元に,計画的に作業	
10		・カラープランニング実習を通して色彩効果について学び,空間構成に活かす	
11			
12			
1	・学習のまとめ	・プレゼンテーションソフト・周辺機器等を活用し,プレゼン(作品発表)	
2	・作品発表		
	・清掃		

インテリア 科	科目名	3年選択B（製図）	校長印		教頭印	
履修学科	インテリア科3年				担当者	
履修学年	第3学年	履修単位	2単位			
概要及び目標	1・2年次に製図の知識と技術の基礎となる様々な要素を学び、3年次ではそれを応用発展した作品を制作する。各種コンテストに応募し、受賞を目指す。					
評価基準及び方法	CADで作成した課題作品の全提出を前提とする。 出席状況・授業態度を考慮。					
使用教科書及び教材	ソフト：Jw-CAD、3Dマイホームデザイナー 教科書：Jw-CADで学ぶ建築製図の基本・インテリアコーディネートトレーニングブック					
その他留意点	著作権に注意する。					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	jwCADを使用し、建築製図をトレースする	①オリエンテーション	
5		②PC基本操作の確認 ③jwCADの操作確認 ④建築製図の書き方の手順通りに平面図や立面図を作成	
6	3Dマイホームデザイナーを使用し、目的にあったインテリアを配置する	・前年度までの3Dマイホームデザイナーの基本操作法とプレゼンボード作成までの操作法の確認 ・部屋の規模、テーマ決め、自由に制作する。	
7			
9	各種コンペ、コンテスト作品への応募作品製作	2学期中に行われる各種コンペ、コンテスト等へ応募する製図作品を製作し受賞を目指す	
10			
11			
12			
1	各種コンペ、コンテスト作品への応募作品製作	募集継続中のコンペ作品の製作と応募	
2	・学習のまとめ ・CAD室の整理整頓	・1年間の反省と各自の作品の作品集の製作 ・使用した教室の整理整頓	

インテリア科	科目名	インテリア設備 (CAD・CG 類型)	校長		教頭	
履修学科	インテリア科				担当者	
履修学年	第 3 学年		履修単位	2 単位		
概要及び目標	インテリア科で学ぶ生産技術は (A) 建築物の内部空間を構成する技術と, (B) 空間で使われる家具や器具を生産する技術とがある。 「インテリア設備」で学ぶのは, 主として (A) の分野である。建築構造, 建築設備, インテリアの構造・材料, 維持保全, 関連法規などの基礎知識を習得し, 多様化する社会と技術に対応できる能力を身につけていきたい。					
評価基準及び方法	定期テスト, 小テスト, 課題または提出物等を中心にし, 授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。					
使用教科書及び教材	教科書 … 文部科学省 「インテリア設備」 東京電機大学発行 教材 … 建築図面, 模型, 掲示物, 建築関連書物					
その他留意点	実習等に関連づけて学習する。					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
月	単元名	学習内容と方法	備考
4	利エンテーション, 総説 第 7 章 関係法規	第 1 節 安全な居住環境 第 2 節 建築基準法 第 1 法の校正と種類	
5		第 2 用語の定義 第 3 一般計画に関する規定 第 4 空間環境・衛生に関する規定	
6		第 5 防火に関する規定 第 3 節 消防法 第 1 火災の予防 第 2 防災規制	
7		第 4 節 その他の関係法 第 1 バリアフリー法 第 2 ビル管理法	
8			
9		第 3 グリーン購入法 第 4 住宅品質確保促進法 第 5 対審改修促進法 第 6 長期優良住宅	
10	第 5 章 構造の力学	第 1 節 構造物と力 第 1 構造物 第 2 加重 第 3 反力	
11		第 4 部材の反力 第 2 節 部材の断面 第 1 材料の性質	
12	第 4 章 維持保全とリフォーム	第 2 断面の性質 第 1 節 維持保全 第 1 維持保全の目的	
1		第 2 ライフサイクルコスト 第 3 維持保全の内容	
2	まとめ	1 年間のまとめ	

インテリア 科	科目名	インテリア計画木工 類型班	担当者印	校長印	教頭印
履修学科	インテリア科				
履修学年	第 3 学年	履修単位	2 単位		
概要及び目標	人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる造形的完成と空間的心理及び、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と育成を目的とする。 具体的目標として、インテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学び、各種専門の視覚試験のための確立を目指す。				
評価基準及び方法	学期ごとの定期考査、ファイル提出、小テスト、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。				
使用教科書及び教材	教科書：インテリア計画 教 材：担当者の作成した課題プリント・資料等				
その他留意点	教科書を中心にし、参考資料、プリント資料などをもとに授業に取り入れていく。				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	インテリアと人間工学	・人間工学 ・人間工学の意味・人体寸法 ・人体の大きさと重さ ・計測値とその応用	
5	動作・作業域・動作空間	・姿勢と動作について・作業域について ・動作空間・単位空間	
6	インテリアへの応用 インテリアの安全	・家具の分類について ・機能寸法の考え方 ・家具への応用について(椅子.作業台.室内設備) ・住まいと安全について・日常災害について	
7	寸法計画と規模計画	・空間規模と施設規模 ・規模決定の方法	
8			
9	・モジュラーコーディネーション ・グリッドプランニング	・空間計画 ・人体寸法と設計 ・知覚と空間 ・シングルグリット ・ダブルグリット	
10	・配置と動線	・空間の機能	
11	・インテリアエレメント	・インテリアエレメントの種類 ・インテリアエレメントの位置づけ ・インテリアエレメントの分類について	
12	・インテリアエレメントの計画	家具について ・人体系家具 ・準人体系家具 ・建物系家具 ・障害者・高齢者用家具について・カーテン ・カーペットの種類・計画・選定方法について	
1	・住宅 ・オフィス ・商業施設	・住宅の種類 ・オフィスの空間構成 ・商業施設の種類	
2	まとめ	・まとめテスト	

インテリア 科	科目名	インテリア計画 CC 類型班	担当者印	校長印	教頭印
履修学科	インテリア科				
履修学年	第 3 学年	履修単位	3 単位		
概要及び目標	人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる造形的完成と空間的心理及び、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と育成を目的とする。 具体的目標として、インテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学び、各種専門の視覚試験のための確立を目指す。				
評価基準及び方法	学期ごとの定期考査、ファイル提出、小テスト、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。				
使用教科書及び教材	教科書：インテリア計画 教 材：担当者の作成した課題プリント・資料等				
その他留意点	教科書を中心にし、参考資料、プリント資料などをもとに授業に取り入れていく。				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	インテリアと人間工学	・人間工学 ・人間工学の意味・人体寸法 ・人体の大きさと重さ ・計測値とその応用	
5	動作・作業域・動作空間	・姿勢と動作について・作業域について ・動作空間・単位空間	
6	インテリアへの応用 インテリアの安全	・家具の分類について ・機能寸法の考え方 ・家具への応用について(椅子・作業台・室内設備) ・住まいと安全について・日常災害について	
7	寸法計画と規模計画	・空間規模と施設規模 ・規模決定の方法	
8			
9	・モジュラーコーディネーション ・グリッドプランニング	・空間計画 ・人体寸法と設計 ・知覚と空間 ・シングルグリット ・ダブルグリット	
10	・配置と動線	・空間の機能	
11	・インテリアエレメント	・インテリアエレメントの種類 ・インテリアエレメントの位置づけ ・インテリアエレメントの分類について	
12	・インテリアエレメントの計画	家具について ・人体系家具 ・準人体系家具 ・建物系家具 ・障害者・高齢者用家具について・カーテン ・カーペットの種類・計画・選定方法について	
1	・住宅 ・オフィス ・商業施設	・住宅の種類 ・オフィスの空間構成 ・商業施設の種類	
2	まとめ	・まとめテスト	

科目名	インテリア計画	校長		教頭	
履修学科	インテリア科	担当者			
履修学年	第 1 学年		履修単位	2 単位	
概要及び目標	人間が社会生活を送る多様な空間の概念を理解し、インテリア計画の基礎となる造形的完成と空間的心理及び、環境問題に関する知識や技術を習得し、活用する能力と育成を目的とする。具体的目標として、インテリア各種空間の設計に発展する基礎知識を学ぶ。				
評価基準及び方法	学期ごとの定期考査、プリント提出、小テスト、授業態度や出席などを総合的に判断し評価する。				
使用教科書及び教材	教科書：インテリア計画				
その他留意点	実習等に関連づけて学習する				

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	オリエンテーション インテリア計画の概要①	・インテリア計画の概念・インテリア計画について	
5	インテリア計画の概要② 住まいの性能	・住まいのとらえ方・生活像の把握 ・ユニバーサルデザインについて ・性能のとらえ方・住まいの快適性と健康・安全	
6	インテリアの造形と心理①	・感覚の特性(感覚の種類と質・感覚の強さ) ・ウェーバー・フェヒナーの法則	
7	視覚と視覚特性	・視覚と視覚特性について(視野・視線・距離と見え方・可視光域と順応・視覚の特性)	
9	形態について学ぶ	・形態の分類について(点の種類と表情・面の種類と表情)(平面・曲面) ・形態の概念(室内の構成要素)(機能と形態)	
10	色彩とテクスチャー	・色彩の概念と分類 ・色彩の表示系と配色について	
11	空間の認知	・空間定位・スケール感について・開放感と閉鎖感 ・空間行動の諸相・ポピュレーションステレオタイプとは・人の位置と向き	
12	インテリアの環境①	・気温・湿度・風・雨・日照・日射について	
1	インテリアの環境②	・光・採光・照明について	
2	インテリアの環境③	・騒音・熱・空気・シックハウスについて	
3	インテリアの環境④ 総まとめ	・照明の種類・照明の方式	

インテリア科	科目名	模型（選択）		校長印	教頭印	担当者印
履修学科	情報技術科、デザイン科、					
履修学年	第3学年	履修単位	2単位			
概要及び目標	生徒自身が身近な家具を想定し機能性と美しさを考慮した作品を研究し模型を制作する。目標とする家具（机・椅子、収納棚、ベッド、ソファ等）					
評価基準及び方法	課題作品・図面の提出、授業態度や出席状況を照らし合わせ総合的に評価する。					
使用教科書及び教材	インテリア製図、インテリア計画、インテリアエレメント生産、課題プリント。					
その他留意点	刃物を使用するため安全には、特に注意する。模型に使用する材料の名称や、着色・加工に使用する工具等の名称や使用方法を学ぶ。					

学習計画

月	単元名	学習内容と方法	備考
4	調査と工程表	オリエンテーション、調査、資料収集、	
5	図面作成	アイディアスケッチ、製図（三面図・部品図） 1/20,1/30 模型作成、表現の工夫	
6			
7	材料の加工	部品加工、着色	
9	材料の加工	部品加工、着色	
10	組み立て	仮組、調整、完成	
11	図面作成	アイディアスケッチ、製図（三面図・部品図） 1/20,1/30 模型作成、表現の工夫	
12	材料の加工	部品加工、着色	
1	材料の加工	部品加工、着色	
2	組み立て	仮組、調整、完成	
3	作品鑑賞と道具の手入れ	仕上げ塗装、講評会（鑑賞）、道具の手入れ	